

教 育 研 究 業 績

2022年5月1日

氏名 長野 麻子

学位：博士（音楽学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育学、芸術学	乳幼児の音楽教育、現代音楽、シュネーベル、絵本、子ども文化	
主要担当授業科目	音楽演習 A、基礎音楽Ⅱ、子どもの文化と環境、保育指導法演習（総合表現）、子どもの芸術文化Ⅱ、保育指導法演習（言葉と表現）、課題研究 A・B	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
「基礎音楽Ⅱ」	2015年4月～至現在	保育士資格・小学校教諭一種免許取得のための音楽に関する科目。乳幼児の保育および子どもの教育に役立つ楽典とピアノ演奏および歌唱技術について講義と個人指導を行っている。
「保育内容研究（表現）」/「保育指導法演習（総合表現）」	2015年4月～至現在	保育士資格・幼稚園教諭一種免許取得のための音楽表現に関する科目。乳幼児の発達と音楽表現を軸にわらべうたや手遊び、呼吸や声を用いたコミュニケーション、楽器による音遊びなどの指導法について講義と演習を行っている。
「子どもの文化と環境」	2015年4月～至現在	保育士資格取得のための科目。伝承遊び、童謡・子どもの歌、絵本、紙芝居、おもちゃ、テレビ番組、アニメ、自然体験などをテーマに子どもを取り巻く文化と環境の特徴と本質について現代の課題とともに講義を行なっている。
「保育指導法演習（言葉と表現）」	2019年4月～至現在	保育士資格・幼稚園教諭一種免許取得のための言葉と表現に関する科目。乳幼児の発達と言語表現を軸に、乳幼児への言葉かけ・歌いかけ、絵本読み聞かせ、紙芝居上演、言葉遊びなどの指導法について講義と演習を行なっている。
「子どもの芸術文化Ⅱ」	2016年4月～至現在	「音楽と視覚」をテーマに日常風景の音の絵の制作、音の紙芝居の制作、芸術鑑賞などについて講義と演習を行う。また乳幼児のための芸術プログラムの制作と実践についての指導も行なっている。
2 作成した教科書、教材		
『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』（童心社）	2010年11月17日	「保育内容研究（表現）」「保育指導法演習（総合表現）」の教材として、呼吸と声の表現およびコミュニケーションの喜びと豊かさについて、実践とともに伝えている。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
親子で楽しむ土曜講座	2009年4月～2015年3月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催の地域のための公開講座。成人のための歌唱講座や親子のふれあい講座などを企画、運営し、講師を務めた。
保育者のためのステップアップ講座	2009年4月～2015年3月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催の保育者のための研修会。企画および音楽のワークショップについての分科会の講師を務めた。
立教女学院短期大学公開講座	2010年2月～2012年2月	立教女学院短期大学主催の地域のための公開講座。音楽のテーマに基づき、レクチャーコンサート、親子のふれあい講座を企画し、講師を務めた。
成徳ミニコンサート	2015年4月～至現在	東京成徳大学子ども学部主催のコンサート。学内学生向けに芸術コンサートの企画、運営を行なっている。
東京成徳大学子ども学部手作り絵本コンクール	2015年4月～2019年3月	東京成徳大学子ども学部主催の絵本コンクール。入試広報の一環として、高校生および本学在籍生を対象とした手作り絵本コンクールの企画、運営、審査、絵本教室の講師などを務めた。
東京都板橋区児童館における子育て支援活動	2016年5月～2019年	板橋区の要請により、東京成徳大学子ども学部学生とともに板橋区主催「わくわくフェスタ」へのスタッフとしての参加、板橋区児童館における子育て支援のためのイベント活動を実施している。

5 その他				
職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
1 資格, 免許 中学校教諭専修免許 (音楽, 中専第 10621 号)	1998 年 3 月			
高等学校教諭専修免許 (音楽, 高専第 10739 号)	1998 年 3 月			
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項 東京成徳大学図書館運営委員	2015 年 4 月～至現在	図書の選定、推薦、図書館だよりの発行などの業務を行なっている。		
東京成徳大学子ども学部総務委員長	2020 年 4 月～至現在	子ども学部行事、公開講座、紀要、学年別研修、海外研修などの事業を統括している。		
4 その他				
研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 「記譜法」『音の百科事典』	共著	2006 年 1 月	丸善出版, 338-346 頁.	共著: 岩宮眞一郎、大里俊晴、酒井博之、 <u>長野麻子</u> ほか 107 名。音に関する事項を科学的、社会的、文化的側面から網羅し、解説した事典。「記譜法」の項目を担当し、東西の記譜法を譜例とともに歴史的に概観し、解説した。338-346 頁。
2 『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』	共著	2010 年 11 月	童心社	共著: <u>長野麻子</u> 作、 <u>長野ヒデ子</u> 絵。音楽と身体の関係に着目し、呼吸と声の表現をテーマに創作した絵本。全文を担当。言葉と絵の聴覚ならびに視覚的イメージから読者に様々な形式や感情を伴う呼吸や発声を促し、呼吸と音声の表現およびコミュニケーションの喜びと豊かさを伝えている。
3 『子どもの育ちと保育: 環境・発達・かかわりを考える』	共著	2015 年 9 月	金子書房	共著: 牧野カツ子編、本田和子、大久保忠旦、内田伸子、 <u>長野麻子</u> ほか 5 名。5 章「ことばと呼吸と音楽」を担当。宇都宮共和大学主催公開講座の記録。ことば、呼吸、音楽の相互関係を明らかにし、それらの表現とコミュニケーションの意義を実践とともに示した。101-120 頁。
4 『まんまん ぱっ!』	共著	2016 年 11 月	童心社	共著: <u>長野麻子</u> 作、 <u>長野ヒデ子</u> 絵。乳児との音声コミュニケーションによる触れ合いをテーマにした絵本。全文を担当。喃語などの音楽的要素を備えた乳児の言語を絵の視覚的イメージとと

				もに乳児に語り聞かせ、共感と表現を促す。
5『不可思議的呼吸』	共著	2018年4月	廣西師範大学出版社、中国	共著：長野麻子作、長野ヒデ子絵、彭懿、周龍梅訳。自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』（2010年、童心社）の中国語による翻訳版。
6『すっすっはっはっ しんこきゅう』	共著	2019年4月	童心社	共著：長野麻子作、長野ヒデ子絵。自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』（2010年、童心社）の紙芝居。全脚本を担当。新学期や新生活の始まりに、健全な生活が送れるように、呼吸および声、感情表現の大切さを実践とともに伝えている。参加型紙芝居として、演者が観客に呼吸や発声を促し、共感を高める。
(学術論文) 1『シュネーベルにおける「伝統」の問題—《TRADITION》、《RE-VISIONEN》シリーズの1970年代の作品を中心に—』	単著	1998年3月	東京芸術大学 修士論文	ドイツの現代音楽の作曲家シュネーベルの作品にみる「伝統」の意義について、作曲家の言説と作品分析、ポストモダンの面から検証した。
2「シュネーベルにおける『伝統』の問題—《TRADITION》、《RE-VISIONEN》シリーズの成立と理念—」	単著	2000年8月	『音楽学』（日本音楽学会）第46巻1号, 54-70頁.	ドイツの現代音楽の作曲家シュネーベルの作品を論じた修士論文に基づき、作品の成立背景と理念を作品分析とともにより詳細に論じた。
3『音楽と身体—シュネーベルの創作における音声と身振りの考察—』	単著	2007年3月	東京芸術大学 博士論文	シュネーベルの創作の中心である身体表現の音楽的意義について、作曲家の言説と主要作品の分析、神学および歴史哲学の面から検証した。
4「子育て支援としてのわらべうた—指導の意義と成果未就園児親子を対象とした実践報告」	共著	2010年1月	『聖公会保育』（聖公会保育連盟）第16号, 11-22頁.	共著：斉木美紀子、今川恭子、長野麻子。立教女学院短期大学幼児教育研究所主催の「土曜講座」におけるわらべうたの実践を受講者アンケートの結果とともに報告し、指導の意義と成果を示した。21-22頁。
5「歌うとは何か？—幼児の歌唱教育における問題点と提言—」	単著	2010年2月	『立教女学院短期大学紀要』第41号, 37-50頁.	保育現場を中心とした慣習的な歌唱のあり方に疑問を呈し、歌唱の意味を本質から捉え直すと同時に、新たな提言として呼吸や声の自由な表現の可能性と意義を実践報告とともに示した。
6「音楽の言葉で表現すること—保育者養成における『表現』の取り組み—」	単著	2011年2月	『立教女学院短期大学紀要』第42号, 83-99頁.	保育士・教職科目「保育内容研究（表現）」に求められる指導内容と「表現」の意味を音楽独自の言語の視点から、実践報告とともに提言した。
7「東京成徳大学子ども学部地域の子育て支援の試み—板橋区児童館での活動を通して—」	共著	2017年3月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第6号, 33-53頁.	共著：長野麻子、岡 千春。東京成徳大学子ども学部学生とともに実施した東京都板橋区児童館における子育て支援プログラムの理念および実践計画とその成果を、参加者アンケートの結果報告とともに示した。33-42、51-53頁。

8「子どもと自然—いわむらかずおの『14ひきのシリーズ』と絵本の丘美術館についての考察—第1部：『14ひきのシリーズ』のテーマ」	単著	2017年12月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第7号, 25-48頁.	いわむらかずおの絵本『14ひきのシリーズ』とその主な創作舞台である「いわむらかずお絵本の丘美術館」に着目し、絵本を媒介に自然体験が子どもの成長にもたらす意義を明らかにする研究の第1部。『14ひきのシリーズ』において作者がテーマとする「家族」と「自然」の意味およびその背景を、作者の言説に基づいて検証した。
9「ピアノ初心者のための子どもの歌弾き歌い指導法」	共著	2022年3月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第12号, 15-32頁.	共著：長野麻子、青山真弓、上野彩子、榎本太麻子、高橋淳子。保育士・教員養成課程におけるピアノ初心者のための子どもの歌弾き歌い指導法を楽曲の例示とともにピアノ伴奏と歌唱の両側面から提案し、効率的かつ効果的な学習成果を目指した。
(その他：①演奏) 1 シュネーベル 《Maulwerke》 《Körper-Sprache》	共著	2010年12月	『eX. 15 シュネーベル研究』eX. 主催. (東京)	シュネーベルの生誕80歳を記念し、企画、監修、解説および出演した演奏会。足立智美、田井智紀、中川俊郎、山根明季子とともに呼吸・音声および身体表現による作品を上演した。
2 《花》《おぼろ月夜》《この道》《待ちぼうけ》他全14曲	共著	2013年4月	『えほんの丘ちいさな音楽会』いわむらかずお絵本の丘美術館主催. (栃木)	いわむらかずお絵本の丘美術館の音楽会で、池田直樹（バリトン）、池田早苗（ソプラノ）による日本・世界歌曲の独唱および二重唱のピアノ伴奏を行った。
3 《みわたせば》《浜辺の歌》《ぞうさん》《やぎさんゆうびん》他全17曲	共著	2014年4月	『えほんの丘ちいさな音楽会』いわむらかずお絵本の丘美術館主催. (栃木)	いわむらかずお絵本の丘美術館の音楽会で、池田直樹（バリトン）、池田早苗（ソプラノ）による日本・世界歌曲の独唱および二重唱のピアノ伴奏を行った。
4 『14ひきのあさごはん』（朗読）	共著	2021年11月	『成徳ミニコンサート《14ひきのあさごはん》～ピアノ連弾と朗読～』東京成徳大学子ども学部主催. (東京)	いわむらかずおの著書『14ひきのあさごはん』に基づくピアノ連弾作品《14ひきのあさごはん》の演奏（連弾：佐藤季里・高橋淳子）に合わせて、『14ひきのあさごはん』の朗読を行った。
(その他：②学会発表) 1 「シュネーベルにおける『伝統』の問題—《TRADITION》、《RE-VISIONEN》シリーズの1970年代の作品を中心に—」	単著	1998年4月	日本音楽学会関東支部第269回例会 (東京)	学会推薦による修士論文の口頭発表。ドイツの現代音楽の作曲家シュネーベルの作品にみる「伝統」の意義について、作曲家の言説と作品分析、ポストモダンの面から検証した。
2 「音楽における身体の意義—D. シュネーベルの《Maulwerke》と《Körper-Sprache》」	単著	2005年10月	日本音楽学会第56回全国大会 (東京)	博士論文のための研究の中間報告としてシュネーベルの音楽劇の主要作品を分析し、身体表現の意義を考察した。

3「シュネーベルの音楽思想—音楽劇の創作にみる身体表現をめぐって」	単著	2008年10月	日本音楽学会第59回全国大会（東京）	博士論文のための研究の中間報告としてシュネーベルの音楽劇における身体表現の根底にある作曲家の思想を考察した。
4「歌うとは？—幼児教育における歌唱とその指導について—」	単著	2010年5月	日本保育学会第63回大会（愛媛）	（ポスター発表）幼児の歌唱教育を見直し、歌唱の原点を呼吸や声の自由な表現に見出す指導法を実践報告とともに提言した。
5「シュネーベルの《マウルヴェルケ Maulwerke》とその教育的価値について—非伝統的歌唱教育の視点から—」	単著	2010年9月	日本音楽教育学会第41回大会（埼玉）	呼吸と声、身体の身振りのためのシュネーベルの音楽劇を教育的視点から捉え直し、幼児の歌唱教育に応用する方法を提言した。
6「シュネーベル《声のために（…ミサは終われり）》再考—現代音楽における歴史と宗教の問い—」	単著	2010年11月	日本音楽学会第61回全国大会（愛知）	シュネーベルの宗教作品とその音楽思想を世俗化の神学と歴史哲学との関係から分析、考察した。
7「呼吸する絵本—『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』制作プロセス—」	単著	2011年5月	日本保育学会第64回大会（東京）	（ポスター発表）自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』が意図する呼吸と音声表現およびコミュニケーションの意義を制作プロセスとともに示した。
8「絵本をいかに読むか？—『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』における呼吸と声の意味—」	単著	2011年6月	絵本学会第14回大会（東京）	自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』における呼吸と声の表現の意図および読み方を解説し、音楽的アプローチに基づく絵本の位置付けを示した。
9「赤ちゃん絵本に求められるものとは？—『まんまんぱっ!』の制作現場から—」	単著	2017年5月	絵本学会第20回大会（神奈川）	乳児との音声コミュニケーションをテーマにした自著『まんまんぱっ!』の意図と赤ちゃん絵本としての意義を乳児の言葉と音楽、視覚の関係性から示した。
10「絵本から幼年童話へ」	共著	2017年5月	絵本学会第20回大会（神奈川）	日本児童文学学会、日本イギリス児童文学会、絵本学会の合同企画によるラウンドテーブル。佐々木由美子、竹内美紀、藤本朝巳、長野ヒデ子とともに、幼年童話の特質と重要性について問題提起と意見交換を行った。
11「『14ひきのシリーズ』のテーマと原点へのアプローチ—いわむらかずおが伝えるものとは—」	単著	2018年6月	絵本学会第21回大会（北海道）	いわむらかずおの絵本『14ひきのシリーズ』のテーマである「家族」と「自然」に着目し、それらの意味とともに作者の幼少期の体験と創作の関連性を明らかにした。
12「絵本から生まれる音楽—子どもの表現活動における呼吸や声の多様なコミュニケーションを求めて」	単著	2017年10月	音楽教育学会第48回大会（愛知）	呼吸や声の表現が絵本の視覚的表現と媒体を伴うことにより、多様なコミュニケーション形態を生み出す可能性と意義を自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』と『まんまんぱっ!』の制作と読み聞かせの実践から示した。
（その他：③報告）				
1「土曜講座 2010年度活動報告」	単著	2010年3月	『立教女学院短期大学幼児教育研究所紀要』第12号、38-43頁。	地域のための歌唱講座および親子のふれあい講座の年間活動報告を行った。
2「土曜講座 2011年度活動報告」	単著	2011年3月	『立教女学院短期大学幼児	地域のための親子のふれあい講座の年間活動報告を行った。

			教育研究所紀要』第13号, 35-43頁.	
3「土曜講座報告 2014 年度活動報告」	単著	2015 年 3 月	『立教女学院短期大学幼児教育研究所紀要』第 16 号	地域のための親子のふれあい講座の年間活動報告を行った。
(その他：④雑誌記事) 1「いわむらかずお絵本づくり 50 年『とがり山のぼうけん』を語る」	単著	2020 年 8 月	『絵本 BOOKEND』絵本学会、66～75 頁	絵本作家いわむらかずおのデビュー50周年にちなみに、代表作の一つである長編絵本『とがり山のぼうけん』の創作についていわむらかずおにインタビューを行い、記事にした。
2「声は呼吸から生まれる」	単著	2021 年 6 月	『紙芝居文化ネットワーク』第 72 号、付録 1 頁	紙芝居文化推進協議会主催 21 世紀紙芝居学校で行った自著の絵本の読み聞かせ、紙芝居の上演とそれらにまつわる呼吸、声、言葉の表現についての講演内容を文章にまとめた。
(その他：⑤演奏会プログラムノート) 1「シュネーベル《ベートーヴェン・シンフォニー》」「カーゲル《フィナーレ》」	単著	2004 年 2 月	『アンサンブル東風第5回定期演奏会—えっ、ベートーヴェン!?!—』プログラム、2-3頁.	室内管弦楽団アンサンブル東風のベートーヴェン・オマージュを掲げた演奏会の曲目解説。ベートーヴェンの作品をモチーフやテーマにした現代音楽作品の特徴について述べた。
2「ゴープ《ワイマール》」「メノッティ《電話》」	単著	2005 年 2 月	『アンサンブル東風第6回定期演奏会—こえ・うた・オペラ—』プログラム、2 頁.	現代音楽の声楽および舞台作品を特集した演奏会の曲目解説。ゴープの日本初演作品《ワイマール》とメノッティのオペラ作品の特徴について述べた。
3「シュニトケ《ディアローグ》」「リゲティ《ハンブルク協奏曲》」「クセナキス《タレイン》」	単著	2007 年 2 月	『アンサンブル東風第8回定期演奏会—アンサンブルの妙技—』プログラム、2 頁.	現代音楽の器楽の技巧を特集した演奏会の曲目解説。シュニトケ、リゲティ、クセナキスの作品の特徴について述べた。
4「バッハ（編：ヴェーベルン）6 声のリチェルカーレ〜『音楽の捧げもの』より」「シュネーベル《ワーグナー牧歌》」	単著	2010 年 2 月	『アンサンブル東風第 11 回定期演奏会—生まれかわるクラシック〜バッハ・モーツァルト・ワーグナー—』プログラム、3-4 頁.	クラシック作品を編曲した現代音楽を特集した演奏会の曲目解説。ヴェーベルンとシュネーベルの作品の特徴について述べた。
5「シュネーベル《réactions》」「シュネーベ	単著	2010 年 12 月	『eX. 15 シュネーベル研	シュネーベルの生誕 80 年を記念した演奏会の曲目解説。シュネーベルの音声

ル《nostalgie》」「シュネーベ《Maulwerke》」「シュネーベル《Körper-Sprache》」「シュネーベル《Fünf Inventionen》」「シュネーベル《Haydn-Destillate》」			究』プログラム, 4-9頁.	や身振りのための音楽劇、器楽作品を分析し、特徴について述べた。
6「マヌエル・デ・ファリャ：ピアノと5人の奏者のためのコンチェルト」	単著	2012年2月	『アンサンブル東風第13回定期演奏会—スペイン音楽の潮流—』プログラム, 3頁.	スペインの現代音楽を特集した演奏会の曲目解説。ファリャのピアノコンチェルトの特徴について述べた。
7「ファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼル《5月の夜》《新しい恋、新しい人生》《南へ》」「クララ・シューマン《なぜ他の人にたずねるの》《美しさのゆえに愛するのなら》《私は暗い夢の中に立っていた》」「アルマ・マラー《静かな夢》《なま温かい夏の夜》《私の父の庭に》」「イザベル・ムンドリー《ノン・ムジュレ〜ルイ・クープランと》」	単著	2013年2月	『アンサンブル東風第14回定期演奏会—作曲家として女性として—』プログラム, 2-4頁.	19世紀から20世紀の女性作曲家の作品を特集した演奏会の曲目解説。ファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼル、クララ・シューマン、アルマ・マラーの歌曲、イザベル・ムンドリーの管弦楽曲の特徴について述べた。
8「ジョージ・ガーシュウィン：子守歌」「ダリウス・ミヨー：屋根の上の牛」	単著	2014年2月	『アンサンブル東風第15回定期演奏会—ジャズ、タンゴ、そして・・・—』プログラム, 2-3頁.	ジャズ、タンゴと現代音楽のコラボレーションを特集した演奏会の曲目解説。ミヨー、ガーシュウインの作品の特徴について述べた。
9「シュネーベル：シューベルト・ファンタジー」「カーゲル：ブロークン・コード」	単著	2015年1月	『月刊都響1・2月合併号』18-20頁.	東京都交響楽団定期演奏会「川島素晴、シュネーベル、カーゲル」のための曲目解説。シュネーベル、カーゲルのオーケストラ作品の成立や特徴について述べた。
10「ルチアーノ・ベリオ《作品番号第獣番》」	単著	2015年2月	『アンサンブル東風第16回定期演奏会—幽玄なる世界へのいざない』プログラム, 2頁.	文学に基づく現代音楽を特集した演奏会の曲目解説。ベリオのテキストつきの木管五重奏曲の特徴について述べた。
11「ジャック・イベール《木管五重奏のための3つの作品》」「ジャック・イベール《ディヴェルティスマン》」	単著	2016年2月	『アンサンブル東風第17回定期演奏会—舞あそぶ音に』プログラム, 2-3頁.	舞踊とのコラボレーションによる現代音楽を特集した演奏会の曲目解説。イベールの2つの室内楽曲の特徴について述べた。

12 「ダリウス・ミヨー：世界の創造」ダリウス・ミヨー：屋根の上の牛」「カールハイイツ・シュトックハウゼン：ツァイトマーセ」「カールハイイツ・シュトックハウゼン：コントラプンクテ」	単著	2017年3月	『アンサンブル東風第18回定期演奏会—時代の潮流見ミヨーとシュトックハウゼン』プログラム, 3-6頁.	20世紀フランスとドイツの現代音楽の作曲家ミヨーとシュトックハウゼンを特集した演奏会の曲目解説。両者の器楽作品特徴について述べた。
13 「モDEST・ムソルグスキー／ジュリアン・ユー：展覧会の絵」「パウル・ヒンデミット：室内音楽第1番 Op. 24-1」	単著	2018年2月	『アンサンブル東風第19回定期演奏会—彩りの音へ』プログラム, 3-5頁.	現代音楽の色彩的表現を特集した演奏会の曲目解説。ジュリアン・ユーの《展覧会の絵》とヒンデミットの室内楽曲の特徴について述べた。
14 「シュネーベル：変ロ長調五重奏曲」「四戸世紀さんに聞く『ベルリンの松下 功』」	単著	2020年2月	『アンサンブル東風第21回定期演奏会—ベルリンの松下功』プログラム, 3頁, 7-10頁.	作曲家松下功のベルリン時代を特集した定期演奏会の曲目解説。松下に所縁のある作曲家シュネーベルの室内楽作品の特徴について解説した。またベルリン留学時代の松下功について、クラリネット奏者の四戸世紀にインタビューを行い、要約した。
15 「モーツァルト《フィガロの結婚》」「ジャズット《アルビノーニのアダージョ》」「松下功《インターシュテラー I (星の狭間に)》」「マスカーニ 歌劇《カバレリア・ルススティカーナ》より間奏曲」「レハール喜歌劇《メリー・ウイドウ》よりワルツ」「ボロディン 歌劇《イーゴリ公》よりダッタン人の踊り」「松下 功《平和ソング》より『元素わたし』」	単著	2020年11月	『第20回仏教音楽祭 Buddhaspel パイプオルガンのタペ プログラム』築地本願寺・仏教伝道協会, 11頁.	築地本願寺パイプオルガン上納50周年を記念し開催された演奏会の曲目解説。クラシックから松下功の現代音楽までの7作品の特徴について述べた。
(その他：⑤書評)				
1 「絵本と一緒に呼吸をしよう」	単著	2010年12月	『母のひろば』(童心社)第559号, 3頁.	新刊紹介として自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の内容と特徴を紹介した。
2 「新刊紹介：『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』」	単著	2012年3月	『日本音楽教育学会ニュースレター』第43号, 6-7頁.	新刊紹介として自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の内容と特徴を紹介した。
3 「名作誕生エピソード 絵本の生い立ち：『まんまん ぱっ!』」	単著	2017年8月	『1・2・3歳』秋号(赤ちゃんとママ社)第151巻, 37頁.	自著『まんまん ぱっ!』の制作プロセスと著者の意図を述べた。
4 「『おつきさまひとつずつ』のちいさいあこちゃん」	単調	2019年9月	『母のひろば』(童心社)第665号, 7頁.	長野ヒデ子著『おつきさまひとつずつ』にみる母と幼い娘の会話の本質について批評を行った。
(その他：⑥講演会・ワークショップ)				

1『音の絵を描こう』子ども文化サマースクール美術創作	共著	2007年8月	愛媛県教育委員会主催。(愛媛)	音から連想される色や形、またはその逆における表現を愛媛県の小学生たちに長野ヒデ子と共同で指導した。
2『アジア作曲家の今』アンサンブル東風第10回記念定期演奏会プレトーク	共著	2009年2月	アンサンブル東風主催。(東京)	アジアの現代音楽と作曲家をテーマにミャンマーの作曲家マウンマウン・ゾーティエとハープ奏者ザーザー・ウィン・マウンと対談した。
3『仮面行列—音のワーク』	単著	2009年8月	風吹きからず主催。(熊本)	熊本県山鹿市の小学生たちと制作した仮面とともに、オリジナルのかけ声や音楽を作り、町へ出て仮面行列を行った。
4『はじまりは歌—体と心をときはなして—』	単著	2009年9月	目黒幼稚園主催。(東京)	保育者の研修会として、歌唱をテーマに呼吸や声の大切さを、実践を交えて講演した。
5『愛唱歌を歌いましょう—音楽の楽しみ』土曜講座	共著	2009年9月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催。(東京)	成人向けの歌唱講座として、まど・みちお生誕100歳を記念し、『ぞうさん』『やぎさんゆうびん』などを解説、指導した。
6『親子の教室—0、1、2、3歳とともに』土曜講座	共著	2009年10月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催。(東京)	乳幼児の親子講座として、手遊び、わらべうたの指導、赤ちゃん紙芝居などの上演を行った。
7『レクチャーコンサート：ピアノの音色—ショパンからシェーンベルクまで—』	共著	2010年2月	立教女学院短期大学公開講座、立教女学院短期大学・杉並区教育委員会主催。(東京)	成人向けの公開講座として、ショパン、リスト、ドビュッシーのピアノ曲の特徴を比較し、時代背景とともに演奏を交えて解説した。ピアノ：巨瀬励起。
8『親子で遊ぼう—絵本とかみしばいと音楽と』土曜講座	単著	2010年7月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催。(東京)	乳幼児の親子講座として、手遊び、わらべうたの指導に加え、絵本の読み聞かせの指導と紙芝居などの上演を行った。
9『音楽ワークショップ～ミュージックシアターを作しましょう！～』第8回保育者のためのステップアップ講座	単著	2010年8月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催。(東京)	保育者のための研修会として、楽器による音遊びに基づくオリジナルの音楽劇の制作発表の指導を行った。
10『親子で遊ぼう—絵本とかみしばいと音楽と②』土曜講座	単著	2010年10月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催。(東京)	乳幼児の親子講座として、手遊び、わらべうたの指導に加え、絵本の読み聞かせの指導と紙芝居などの上演を行った。学生たちによるオリジナルの音楽劇も上演した。
11『クリスマスによせて～聖歌を歌いましょう(オペラ・コンサート付き)～』土曜講座	共著	2010年11月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催。(東京)	成人向けの公開講座として、クリスマスのための聖歌の指導とオペラ・アリアのコンサートを行った。
12『長野ヒデ子さん・長野麻子さん講演会』	共著	2010年12月	四つばの会・水戸市立図書館主催。(茨城)	絵本『すっすっはっはっ こ・きゅう』の紹介と読み聞かせ、子ども向けの呼吸と声のワークショップを行った。
13『ディーター・シュネーベル』eX. experiment	単著	2010年12月	eX. 主催。(東京)	自身が監修を行った演奏会『eX. 15 シュネーベル研究』のプレレクチャーと

				して、シュネーベルの作曲の徹底分析を行い、解説した。
14『ドイツ3大Bの世界—バッハ、ベートーヴェン、ブラームスのピアノ曲を聴く—』立教女学院短期大学公開講座	共著	2011年2月	立教女学院短期大学・杉並区教育委員会主催。(東京)	成人向けの公開講座として「ドイツ3大B」で知られるバッハ、ベートーヴェン、ブラームスのピアノ曲の特徴を比較し、時代背景とともに演奏を交えて解説した。ピアノ：菅野雅紀
15『ノルウェー音楽の潮流』アンサンブル東風第12回定期演奏会プレトーク	共著	2011年2月	アンサンブル東風主催。(東京)	ノルウェーの現代音楽の作曲家、パフォーマーのリサ・ディランを迎え、ノルウェー音楽の事情を伺うとともに対談した。
16『呼吸と声のワークショップ』	単著	2011年2月	立教女学院短期大学附属幼稚園天使園主催。(東京)	立教女学院短期大学附属幼稚園の園児を対象に絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを行った。
17『音楽ワークショップ—呼吸ってすばらしい、声ってたのしい!—』立教女学院短期大学公開講座	単著	2011年2月	立教女学院短期大学公開講座、立教女学院短期大学・杉並区教育委員会主催。(東京)	成人向けの公開講座として、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを行った。
18『長野麻子講演会～呼吸って素晴らしい、声ってたのしい!すっすっはっはっ わっはっは～』	単著	2011年6月	岡山県国公立幼稚園教育研究会備北支部研修会、岡山県国公立幼稚園教育研究会備北支部主催。(岡山)	保育者の研修会として、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを行った。
19『親子で遊ぼう～わらべうたうたいーい～』土曜講座	単著	2011年6月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催。(東京)	乳幼児の親子講座として、月齢に応じたさまざまなわらべうた、遊びの指導を行った。
20『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』第8回外郎売の口上大会	共著	2011年7月	外郎売の口上研究会主催。(神奈川)	外郎売の口上研究会の子どもたちと共同で、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の読み聞かせとオリジナルの身振りによる舞台上演を行った。
21『ワークショップ：シュネーベル《マウルヴェルケ》』国立音楽大学集中講義(作曲特講B)	単著	2011年9月	国立音楽大学主催。(東京)	国立音楽大学の学生に、シュネーベルの音楽劇《マウルヴェルケ》の講義と上演指導を行い、学生たちによる制作発表を行った。
22『親子で遊ぼう～紙芝居と絵本～』土曜講座	単著	2011年10月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催。(東京)	乳幼児の親子講座として、紙芝居の上演と絵本の読み聞かせの他、動物を模倣するリトミックを学生たちのアシスタントのもとに行った。
23『センス・オブ・ワンダー～森の中で自然を感じよう～(すっすっはっはっ)呼吸はいのちの音』	単著	2011年12月	藤沢市みどりいっぱい市民の会主催。(神奈川)	藤沢市の新林公園内で、子どもたちのための呼吸と声のワークショップを行い、その後、身体や戸外の空気を感じながら散策を行った。
24『(すっすっはっはっ こ・きゅ・う) 長野麻子ワークショップ』	単著	2012年2月	三鷹市文庫連絡会主催。(東京)	乳幼児および小中学生の参加者を対象に、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを行った。

25『絵本とうた～読み聞かせとことば、リズムの楽しみ』立教女学院短期大学公開講座	単著	2012年2月	立教女学院短期大学・杉並区教育委員会主催。(東京)	親子向けの公開講座として、言葉の音とリズムの楽しさをテーマにさまざまな絵本や歌を紹介し、読み聞かせや歌唱指導を行った。
26『スペイン音楽の潮流』アンサンブル東風第13回定期演奏会プレトーク	共著	2012年2月	アンサンブル東風主催。(東京)	スペインの現代音楽の作曲家ファビアン・パニセッコを迎えて、20世紀以降のスペインの事情について伺い、対談を行った。
27『ことばと音楽と呼吸』宇都宮共和大学子ども生活学部平成24年度第5回子育て支援研究センター公開講座	単著	2012年12月	宇都宮共和大学主催。(栃木)	成人向けの公開講座として、音楽における言葉や音とその表現における呼吸や声の大切さを講演し、ワークショップを行った。
28『作曲家として、女性として』アンサンブル東風第14回定期演奏会プレトーク	共著	2013年2月	アンサンブル東風主催。(東京)	韓国の現代音楽の作曲家林志宣と日本の金子仁美を迎えて、作曲家としての女性の生き方や音楽観を伺い、対談を行った。
29『親子リトミック～てくてく期』	単著	2013年4月～2014年3月(毎月1回開催)	喜連川児童センター主催。(栃木)	1～2歳の乳幼児とその親を対象としたリトミック講座。即興によるオリジナルのピアノ伴奏に合わせて動いたり、わらべ歌や単純な打楽器を用いて遊んだりした。
30『あかちゃんと遊ぼう』	単著	2013年6月	いわむらかずお絵本の丘美術館主催。(栃木)	乳幼児向けの音楽と遊びの講座。美術館の館内で絵本原画の鑑賞、絵本の読み聞かせ、歌や楽器の音遊びを行った後、屋外に出て、自然の音や匂い、色を感じる体験をした。
31『呼吸と声、音楽でつなぐ子どもとのふれあい』	単著	2013年6月	さくら市たいよう保育園主催。(栃木)	保育園の保護者会の講演として、家庭で楽しめる音楽として、呼吸や声の表現による遊びを、実践を交えて紹介した。
32『親子参加講座：呼吸のワークショップ』	単著	2013年10月	瀬戸市役所主催。(愛知)	親子向けの呼吸と声のワークショップを乳幼児の部と小学生の部において、行った。
33『ジャズ、タンゴ、そして・・・』アンサンブル東風第15回定期演奏会プレトーク	共著	2014年2月	アンサンブル東風主催。(東京)	ジャズ・サクソ奏者MALTAと作曲家松下功を迎え、ジャズを始めとするポピュラー音楽の演奏やその聞き方について伺い、対談した。
34『親子リトミック』	単著	2014年4月～2014年10月(毎月1回開催)	RASH主催。(栃木)	在住する栃木の地元の育児サークルの親子向けのリトミック講座。1～2歳の乳幼児を対象に、即興によるオリジナルのピアノ伴奏に合わせて動いたり、わらべ歌や単純な打楽器を用いて遊んだりしている。
35『長野ヒデ子と長野麻子絵本ライブ&講演会「エホンごほん ぱっくん」なつよこいこいおはなし会』	共著	2014年7月	青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館主催。(青森)	夏休みの親子向けのイベントとして、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを長野ヒデ子と共同で行った。
36『やってみよう！声遊び・音遊び』第12回保育者のためのステップアップ講座	単著	2014年8月	立教女学院短期大学幼児教	保育者のための研修会として、保育現場で役立つ呼吸と声のワークショップ

			育研究所主催. (東京)	を行い、楽器による音遊びとオリジナルの音楽劇の制作発表を指導した。
37『わらべうたとリトミック』土曜講座	単著	2014年9月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催. (東京)	3歳～5歳の幼児と保護者を対象とした親子講座。わらべうたによるふれあいと動物を模倣するリトミックを学生たちのアシストのもとに行った。
38『あかちゃんと遊ぼう』	単著	2015年6月, 8月9月, 11月	いわむらかずお絵本の丘美術館主催. (栃木)	乳幼児向けの音楽と遊びの講座。美術館の館内で絵本原画の鑑賞、絵本の読み聞かせ、歌や楽器の音遊びを行った後、屋外に出て、自然の音や匂い、色を感じる体験をした。
39『ワークショップ：シュネーベル《マウルヴェルケ》』	単著	2015年7月, 9月, 10月	国立音楽大学主催. (東京)	国立音楽大学の学生に、シュネーベルの音楽劇《マウルヴェルケ》の講義と上演指導を行った。
40『ワークショップ：呼吸と声から生まれる音楽』	単著	2015年10月	公益財団法人音楽文化創造主催. (栃木)	「FORUM in 国際音楽の日宇都宮 2015」のゲスト講師として、呼吸と声の発声および表現のワークショップを行った。
41『舞あそぶ音に』アンサンブル東風第17回定期演奏会プレトーク	共著	2016年2月	アンサンブル東風主催. (東京)	尺八奏者の藤原道山と作曲家松下 功を迎えて、日本の伝統音楽と現代の音楽の演奏の比較について伺い、対談した。
42『本で紡ぐ・カラダで奏でのお泊まり会』平成28年子どもゆめ基金助成活動 音読・朗読・絵本の読み聞かせ・身体運動プロジェクト2016	共著	2016年11月	NPO 法人南薩のまなざし. (鹿児島)	絵本の読み聞かせと身体表現をテーマにした幼稚園児および小学生向けの講演とワークショップを長野ヒデ子ほか3名の講師とともにに行った。
43『時代の潮流—ミヨーとシュトックハウゼン』アンサンブル東風第18回定期演奏会プレトーク	共著	2017年3月	アンサンブル東風主催. (東京)	ミヨーとシュトックハウゼンの人柄、作品、演奏についてピアニストの大須賀かおり、ホルン奏者の堂山敦史、作曲家の松下 功を迎え対談を行った。
44「赤ちゃん絵本に求められるものとは？—『まんまんぱっ!』の制作現場から—」	単著	2017年6月	赤ちゃん絵本研究會主催. (東京)	自著『まんまん ぱっ!』の制作意図と赤ちゃん絵本としての新たな意義を言葉と音楽、視覚の関係性の視点から、読み聞かせの実演を交えて発表した。
45『彩りの音へ』アンサンブル東風第19回定期演奏会プレトーク	共著	2018年2月	アンサンブル東風主催. (東京)	作曲家小坂咲子、松下 功を迎えて、両作曲家の作品の特徴と聴き所について伺った他、ジュリアン・ユー、ヒンデミットの作品の特徴と聴き所について解説を行った。
46『音楽は感情の言葉～呼吸と声で表現しよう』オルフ音楽教育研究会例会	単著	2018年6月	日本オルフ音楽教育研究会主催. (東京)	オルフ・シュールヴェルクとの関連から、作曲家シュネーベルの音楽作品と思想、そこから触発を受けた長野麻子の音楽活動である呼吸と声の研究、絵本作品を紹介、解説し、呼吸と声の表現のワークショップを行った。
47「すっちはいて声をだそう～息・声・歌：呼吸をすることから始めよう～」	単著	2019年5月	愛知県私立幼稚園連盟地区別講座・一宮地区、一宮私立幼稚園連合會主催. (愛	幼稚園教諭を対象とした研修会の講師として、自著の絵本の読み聞かせと紙芝居の上演、保育で歌われる子どもの歌の歌唱とともに、呼吸と声の表現の魅力について講演を行った。

			知)	
48 「声は呼吸から生まれる」	単著	2021年4月	21世紀紙芝居学校、紙芝居文化推進協議会主催。(神奈川県)	21世紀紙芝居学校の講師として、自著の絵本の読み聞かせと紙芝居の上演およびそれらにまつわる呼吸、声、言葉の表現について講演を行った。
(その他：⑦メディアにおける長野麻子についての取材記事、放送など) 1 「テーマは『呼吸』命の実感を絵本に」		2010年12月	『毎日新聞』(毎日新聞社)	絵本の紹介コーナーにおいて、『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の書評とインタビューが掲載された。
2 「ときめきインタビュー：長野ヒデ子さん、長野麻子さん」		2011年4月	『NHKラジオビタミン』(NHKラジオ第1)	『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介を兼ねたラジオ生出演によるインタビュー。放送中に読み聞かせを行った。
3 「すっすっはっはっ こ・きゅ・う」		2011年9月	『声のアトリエ』(FM横浜)	『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の著者による朗読とインタビューがラジオにて放送された。
4 「ママも子どもも気持ちが落ち着く！『す〜っ！は〜っ！』親子で一緒に深呼吸」		2012年11月	『edu (エデュ)』(小学館) 1月号, 63-69頁.	インタビューとイラストによる解説付きの呼吸と声のワークショップが掲載された。
5 「のびのびかぞく」		2013年4月	『クーヨン』(クレヨンハウス) 5月号, 103-109頁.	長野麻子と夫岩村康一朗、娘優李、義両親いわむらかずお、岩村善子の3世代による家族のインタビューと肖像が掲載された。
6 「『歌とリズム』を使った語りかけの魔法」		2014年1月	『AERA with Baby』(朝日新聞社) 2月号, 26-27頁.	家庭内での乳幼児との遊び方として、歌やリズムを使った言葉かけ、音楽を紹介したインタビューが写真による解説つきで掲載された。
7 「愛で世界を変えていくママ・パパ102人！」		2016年4月	『クーヨン』(クレヨンハウス) 4月号, 25頁.	活動内容、未来の社会の予想、子育てで大事にしていることについて寄せたメッセージが写真とともに掲載された。
8 「赤ちゃんと声に出して」		2016年12月	『愛媛新聞』(愛媛新聞社)	新刊『まんまん ぱっ！』の創作にまつわるインタビューが写真とともに掲載された。
9 「子供の頭が良くなるおもちゃは？」		2017年1月	フジテレビ『100人のススメ！』	正月特番にコメンテーターとしてVTR出演した。子どもに薦めたいおもちゃとして「カプラ」を推薦、その魅力についてコメントを行った。

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。